

第2回事業承継ネットワーク会議

大分県内で、事業承継支援をする28団体で構成する事業承継ネットワーク会議が大分市で開催されました。大分県経営創造・金融課の稲垣課長から開会あいさつの後、全体協議を行いました。



後継者がいない企業が53%

会議では、本年4月から9月までの事業承継診断の結果を事務局から報告。9月までに1452社の結果分析について説明がありました。診断の結果は以下の通り。

- ①後継者の有無 あり47%、なし53%
- ②具体的な計画づくりが必要 17%
- ③後継者への説得・課題の整理が必要 9%
- ④引継ぎ支援センターに相談が必要 47%

という結果でした。

課題は事業の将来

一刻も早い対応が必要な中小企業が多いことが現実数字でもあらわされていました。事業承継を行うにあたり「事業の将来に不安がある」が51%

第二位が「借入金・保証の問題」が15%

第三位が「承継に取り組む時間がない」が10%という結果でした。これらの課題解決についても、事業引継ぎ支援センターで相談対応を行っています。

国の機関から各種施策の説明

大分財務事務所秋好理財課長からは、金融庁の本年度の方針の中で、事業承継時の保証徴求の対応等の説明。

九州経済産業局中小企業金融室 田口室長からは令和二年度の「地域における事業承継促進支援策について」の説明があり、引き続き国も事業承継に積極的に取り組む方向であることの説明がありました。



写真左が秋好課長、右が田口室長

県内各機関の協力を共有

金融機関、支援団体、士業の団体から、事業承継に取組んでいる際の課題や今後予定している取組みについて出席した機関から発表があり、情報を共有することができました。

【発表された主な課題】
○企業ごとに危機感のばら

事業承継Q&A

会社(の役員)貸付金が多額

Q 先代社長個人が会社に多額の貸付金をしています。相続の時、大変になるよ！と言われたのですが？
A 会社が資金繰りのために代表者から資金を借り

入れ、代表者勘定として貸方に計上されている決算書をよく見ます。代表者にしてみれば、「自分の会社の資金繰りが大変なので、報酬の一部を運転資金に回しただけだ」と、簡単に考えている方も沢山いるよう

つきがある。

○事業承継の人材育成

○「なるようになる」と考えている人が多い。

○支援機関組織全体で事業承継に取り組む体制を整備する必要があります。

○事業承継診断後、支援や情報把握が必要な事業省に十分なフォローができていない。

など、各機関の抱えている課題や事業承継企業の支援の問題

点等が話し合

れ、今後の支援の対応策として情報

の共有が

できました。



です。決算時に税理士さんからの指導もあると思いますが、次の点に注意した方が良いでしょう。

会社と代表者個人は、一心同体と

思って経営されていると思います

が、法律上は別物です。代表者個人が会社に貸し付けていることになり

ます。会社としては、代表者からの借入金を返済する

ために、①銀行から資金を借り入れる。②法人契約の生命保険の解約による資金調達等が考えられま

すが、会社の財務状況の悪化と、先代経営者個人の相続税対策の課題が残ることになります。債権債務を消

減させる方法として、①貸付金を現物出資する方法(この場合は、先代経営者の持ち株数が増えますので対応についての検討が必要になります)。

②先代経営者が会社に債権放棄を行う方法もあります。この場合も繰越欠損金があれば、債権免除益が発生し法人税等の課税が問題となります。

いずれにしても、顧問の税理士に相談される必要があるでしょう。

貸借対照表を見て、代表者勘定が多額となっている企業の方は、しっかり検討して後悔しないように事前準備をしておくことが肝要です。

支援者もしっかり知識習得

事業承継相談を受ける際の、支援能力の向上を目的にした研修会が11月6日と7日に大分市で開催されました。商工会・商工

会議所の経営指導員、金融機関の担当者、中小企業診断士、行政書士ら

60人を超える参加者を集めました。講師には、東京から事業承継支援で著名な事業承継センターの内藤会長をお迎えし、基礎知識、株式評価、M&Aの手法等の講義。2日目は中小企業基盤整備機構



講師の内藤先生

の西元先生による実務体験型研修により、相談相手の思いをしっかりと聞き出す手法を学びました。

ナカシマ船舶さんがマヌロミに登場

杵築市で造船業を営んできた中嶋信利さん(69歳・写真右)は、杵築市商工会が実施した事業承継診断がキッカケで昨年12月に進一郎さん(写真左)にバトン

タッチできました。承継の経緯やお仕事の様子が9月25日の大分合同新聞に掲載されました。大分の風景というタイトルで『引き継がれていく仕事』ということ

で紹介されました。記事の

最後には『船体を打つ豪快な槌音が、風(な)いだ初秋の海に溶けていく』というとても素敵な言葉で締めくくられていました。支援担当者の杵築市商工会の股尾指導員は、「杵築市商工会・事業引継ぎセンター・専門家(税理士)が連携し、チームとして事業承継の課題を丁寧に整理しながら、事業承継計画書作成を支援しました。計画を事業



者と共にできたことで今後のフォローアップも円滑に取り組むことが出来ま

す。」と、今後も寄り添い

ながら支援を続けていく支

援者としての

覚悟を語って

くれました。



今号のオススメ本

事業承継時の悩みと解決方法、会社を継ぐときの不安の払拭、人間関係のバトルの乗り越え方法などをわかりやすく解説。特に事業を引継いだ後の対応、先代社長に心を込めてあいさつや報連相をする必要性。思いの共有の時間を作ることなど、わかっていながら、なかなか実行できないことを実例を交えている内容になっています。家業から企業への変化のポイントとして「業務のマニュアル化」の必要性を説いています。

親の会社を継いだ跡取りさんのお悩み解決読本

失敗しない! 事業承継に必要なコト

編集後記

平成31年・令和元年と複数の元号が混在した2019年。全国各地でかつて経験したことがないような天災や事故が多発した年でもありました。一方、大分県にかつてないほどの大イベントが実施され、外国から多くのお客さんを迎え大分の良さを体験していただいた年でもありました。来るべき令和2年は子年。この干支は増えるという意味合いもあり、命が誕生する意味合いもあるそうです。中小企業者の事業承継も増えて行くように支援を引き続き行いますので、私どもにお気軽にお声掛け下さい。